

Vol. 44
2020 AUTUMN

INSPIRATION

[繋ぐ]

ニューノーマルに必要とされる 紙の可能性を創造する

追悼企画 C.W.ニコル氏が遺した
祈りを込めたメッセージ

作る お出かけのお供に
「KPPオリジナルマスクケース」

国際紙パルプ商事(KPP)が発行するTSUNAGU(繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

その先の未来のために いま、KPPができること

「紙でつなぐ、未来を創る」をキャッチフレーズに2007年より13年にわたって刊行してまいりました「TSUNAGU」も今号で44回目を数えます。紙の文化を守り、紙の可能性を拡げる同誌の秋号を発刊するにあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々や、令和2年7月豪雨によって大きな被害を受けた方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復と被災地の復旧をお祈り申し上げます。感染拡大防止や治療、そして被災地の復旧作業などに日々尽力されている方々には心より敬意を表します。

現在、世界中で新型コロナウイルスによる被害が拡大し、各国でさまざまな対策が講じられていますが、感染者数が日々増加し続け、日本においても感染拡大は止まっておらず、未だ収束に向かう道筋は見えていません。感染症の原因や経路については、まだ解明されていない点も多く、不安を感じていらっしゃる方も多いかと思いますが、この時期に最も重要なことは感染症のリスクと正しく向き合い、ウイルスと共に生きる知恵をつけていくことであると考えます。

先ごろ惜しくも亡くなられた、作家・ナチュラリストのC.W.ニコル氏は、これまで執筆や講演、メディア出演などさまざまな活動を通して環境保全の大切さを訴えて来られました。また、氏はかねてより自然環境の急激な変化によって野生動物の生息地が失われたことがウイルス拡散につながったのではないかと指摘していました。ウィズコロナの時代を生き抜く中で考えるべき究極の対策は、人類が犯した過ち、即ち自然破壊を止め、少しずつでも地球環境を取り戻していくことではないでしょうか。このために紙パルプ産業が果たすべき役割は小さなものではありません。

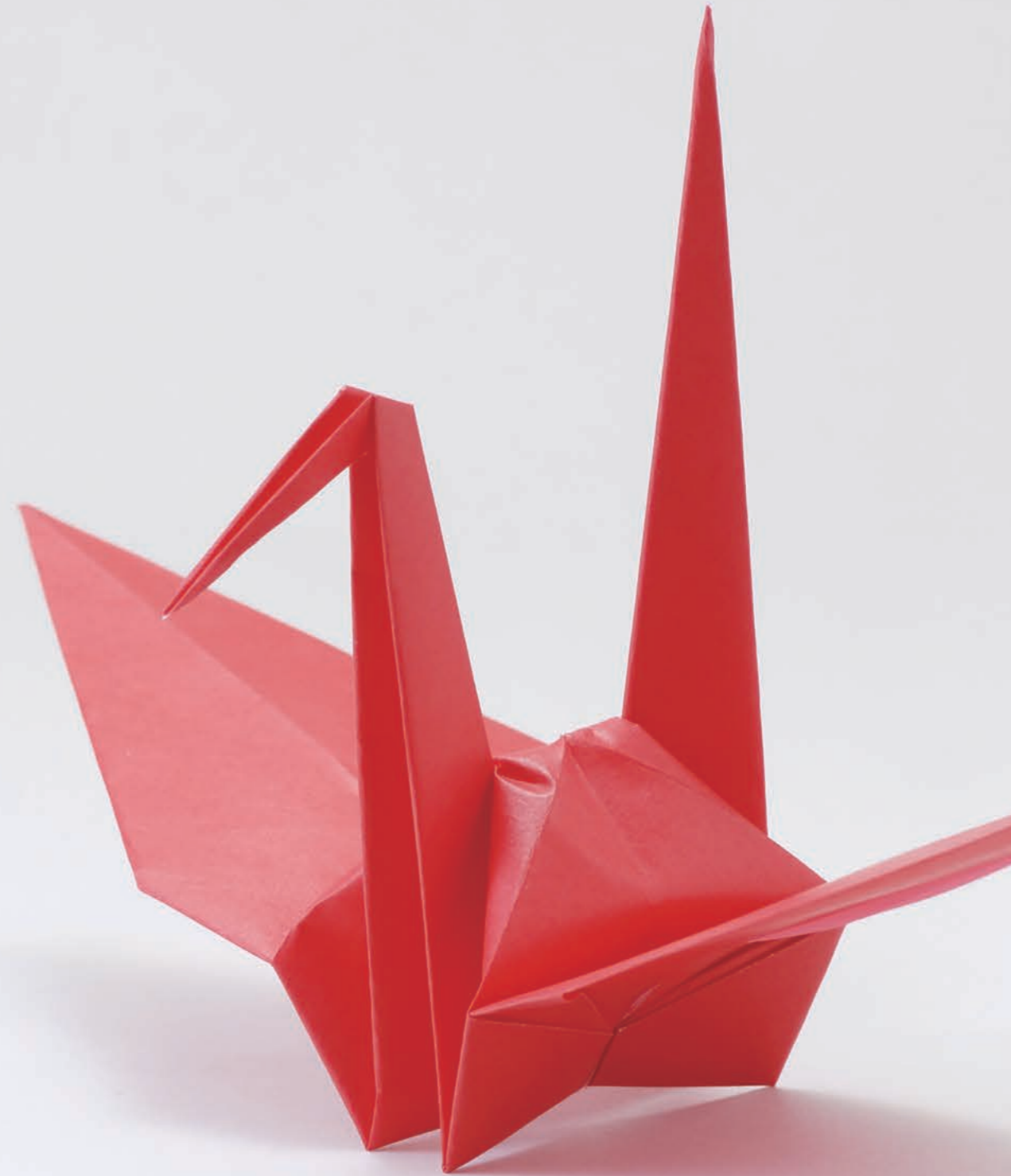
今号では、「アートとしての紙」からは少し離れて、ウィズコロナの生活にヒントとなるコンテンツを用意させていただきました。自粛生活が続く中、今号の内容が皆様方の一助となることを願っております。

これからもKPPグループは紙パルプ産業の一員として、環境のサステナビリティだけではなく、社会のサステナビリティにも目を向け、暮らしを豊かにする新たな価値創造に取り組んでまいります。今後ともかわらぬお引き立てのほど、よろしくお願いいたします。

代表取締役 会長 兼 CEO **田辺 円**



7/27～8/31まで、本社1階エントランスにてC.W.ニコル氏のラストメッセージを掲示しました。
(左:会長 兼 CEO・田辺 円、右:社長・栗原 正)



「平和への折りを込めて」

折り鶴は「平和」や「祈り」を象徴する紙飾りです。当社グループの鳴海屋紙商事株式会社(宮城県仙台市)では、仙台七夕まつりで使用する紙飾りの制作を行っています。仙台七夕まつりは毎年8月6日～8日の3日間にわたって開催され、約3,000本の色鮮やかな飾りが市中を埋めつくす盛大な祭りです。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりましたが、当社グループは一日でも早く平穏な日々が戻ることを願い、誌面を通して伝統をつないでまいります。



提供:鳴海屋紙商事株式会社

巻頭言 P02

その先の未来のために
いま、KPPができること

先どる P03

ウイルス対策に役立つ
特選ペーパーアイテム

追悼企画 P05

C.W.ニコル氏が遺した
祈りを込めたメッセージ

伝える P07

日本の自然を愛した
追憶の中のC.W.ニコル氏

拓く P09

循環型社会構築に向けた
2つのサステナブル事業

深める+ P11

新たにKPPグループに加わった
欧州の卸商「アンタリス」

深める P13

KPPの最新ニュースを
キャッチアップ

作る 付録

お出かけのお供に
「KPPオリジナルマスクケース」

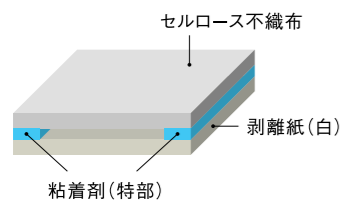
04 マスクを長く清潔に保つための
高品質な不織布シート

「マスク用とりかえシート」

発売:新タック化成(株)
http://www.tack.co.jp/



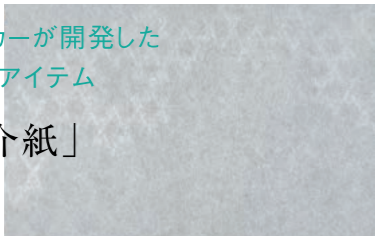
毎日取り換えるマスクは、できるだけ消費を抑えたいもの。とはいえ、外出する時間が長くなると、マスクの汚れやベタつきが気になるという方も多いのではないのでしょうか。そんな方におすすめなのが、マスクの内側に装着する「マスク用とりかえシート」です。素材にやわらかなセルロース不織布を使用しているので肌触りが良く、通気性も良好。マスクに口紅やファンデーションが付いてもシートを取り換えるだけで済むので、マスクをキレイな状態で長く使うことができます。両端が粘着加工されているのでズレにくいのもうれしいポイントです。



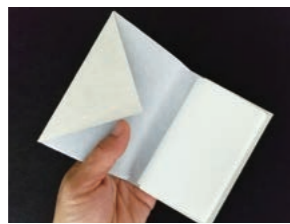
06 美濃和紙メーカーが開発した
接触感染防止アイテム

「抗菌美濃和紙 介紙」

発売:和紙専門店 Washi-nary
https://washinary.jp/
製造元:丸重製紙企業組合
https://www.marujyu-mino.com/



「懐紙」とは、古くから日本人が懐に入れて携帯し、日常的に使用してきた二つ折りの和紙。その懐紙をウィズコロナ時代に合わせて改良したのがこの「介紙」です。素材に、抗菌・抗ウイルス成分を配合した美濃和紙を使用しているので、マスクの内側に装着すれば汚れ防止はもちろん抗菌や消臭の効果がアップ。ドアノブやつり革などに使用することで、接触感染防止に役立ちます。介紙のデザインは、無地タイプのほか、摩除けの効果があると言われる「籠目(六芒星)」の透かし模様2種類。1300年続く美濃和紙の伝統と技術が光るアイテムです。



懐紙を折ってつくる「マスク懐紙」やマスクを収納する「マスクケース」も販売中。

03 マスクを衛生的に保管できる
抗菌ニス加工仕様のケース

「紙製抗菌マスクケース」

発売:野崎商事(株)
http://www.nozack.co.jp/



日常的に使うマスクは、口や鼻に直接触れるものだからこそ、清潔なケースで保管することが大切です。このマスクケースは、両面にコーティングされた抗菌ニスによって、ウイルスが付着するリスクを軽減。また特殊吸着剤が配合されていて、気になるニオイを防臭する効果も期待できます。ポケットが2つあるので、使用中のマスクと未使用の予備マスクを分けて収納できるので、食事の時に外したマスクの保管に便利なアイテムです。



今号の付録はこちらです。
ぜひ活用ください。

05 和紙素材の特長を取り入れた
注目の高性能マスク

「抗菌洗える
和紙ニットマスク」

発売:佐藤繊維(株)
https://satoseni.com/



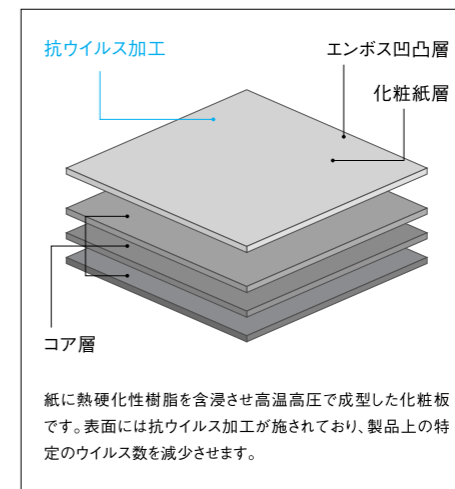
軽くて丈夫な和紙と、抗菌作用のある銅の特長を組み合わせるのがこのニットマスクです。通気性に優れた和紙糸と弾力性のあるポリエステル糸を特殊な製法で燃することで、さらっとした着け心地と顔にフィットする伸縮性を実現。銅化合物をコーティングした糸で編んだ銅シートがポケット部分に差し込まれているので、抗菌・防臭効果も期待できます。無縫製ニット技術で立体的に仕上げたマスクは、洗濯機で洗浄しても型崩れやシワになりにくいのでご安心を。全12色のカラーから選べるので、見た目にもこだわりたい方にもおすすめです。

01 抗ウイルス性能を備えた
化粧板&建材シート

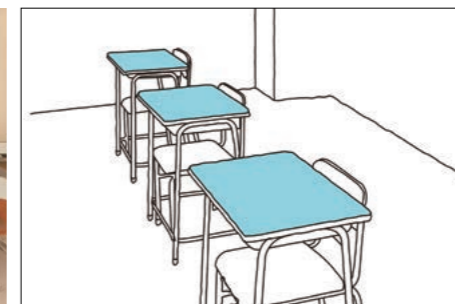
「ウイルテクトシリーズ」

発売:アイカ工業(株)
http://www.aica.co.jp/products/willtect/naisou/

医療・介護施設や育児・教育施設において、ウイルスや細菌に対する衛生管理は最も気を配らなくてはならない重要課題です。この「ウイルテクト」シリーズは、テーブルや家具、什器などの表面材として使用される化粧板に、抗ウイルス性能・抗菌性能を付与したものです。万一の拭き残しや、清掃後に特定ウイルスが付着した場合でも、表面に残った特定ウイルスの数を減少させる効果があります。同シリーズには、家具や什器などに使用する「アイカウイルテクト」、壁面用の不燃タイプ「セラルウイルテクト」の2種類の化粧板ほか、小中学校の学童机(旧JIS規格)向けの、直接貼り付ける建材シート「メラックウイルテクト」もあります。人々が集まる場所の衛生対策に最適です。



紙に熱硬化性樹脂を含浸させ高温高压で成型した化粧板です。表面には抗ウイルス加工が施されており、製品上の特定のウイルス数を減少させます。



傷や汚れに強くお手入れも簡単

02 紙管を連結して組み立てる
間仕切り

「避難所用 間仕切りシステム」

提供:NPO法人ボランティア・アーキテツ・ネットワーク(VAN)/坂 茂建築設計
http://www.shigerubanarchitects.com/



地震や台風、水害などが発生またはその恐れがある場合に開設される避難所。多くの被災者が体育館などの大きな空間で雑魚寝での生活を余儀なくされるなか、個人のプライバシー確保、さらに新型コロナウイルス感染拡大防止は、喫緊に取り組みなければならない課題です。世界的建築家として活躍する坂 茂(ばん しげる)さんは、こうした状況を改善するために、紙管のフレームを組み、布を掛けるだけで簡単に組み立てられる間仕切りユニットを開発。グリッド状に拡張できる紙管は、2メートルの高さがあるため人目が気にならず、カーテンのように開閉できる布がウイルスの飛沫拡散予防にも効果を発揮します。軽くて丈夫な紙管を使ったこの支援活動は、東日本大震災をはじめとする国内外の災害で被災者の環境改善に役立てられています。



当社ECサイト「ペーパーモール」では、このほかにもさまざまなウイルス対策商品を販売中です。ぜひアクセスしてください。

www.kpps.jp/papermall

ペーパーモール 検索

C.W.ニコル氏が遺したメッセージ

「森の祈り」

2019年6月に創られたこの詩は、生前、何百もの文芸作品を創作してきたニコルさんにとって、初めての「祈り」ともいべき詩です。
森や木と人間のかかわりについて書かれていますが、ウィズコロナの時代を生きる人々へのメッセージとも受け取ることができます。

アフアの森財団
YouTube
A Woodland Prayer:
Let me be a tree - C.W. Nicol
「森の祈り - C.W. ニコル」



「森の祈り」 C・W・ニコル

願わくは
わたしは一本の木になりたい
暗闇の中に広く、
深く根を張り
しっかりと土を抱えて
この地球を支える一本の木に
願わくは
わたしは一本の幹になりたい
空に向かって、まっすぐに、力強く
重ねた歳月と季節を年輪に刻み
すくつと立つ大きな柱に

かなうなら
この身を一枝に変え
光射す彼方へと手を伸ばし
風に揺れながら
天に祈りを捧げたい

願わくは
わたしは一枚の葉になりたい
瑞々しい緑の葉に木陰を作り、
清冽な息を吐き
春から秋にかけては
きらめく木漏れ日と戯れ
やがて命尽きれば密やかに舞い落ちて
再び森の土へと還るのだ

かなうなら
わたしはなりたいたい、どんぐりに
木の実に、ベリーに、果実に
食料を分け与え、広く種子を撒けるよう

さあ、みんなで二つの森になろう
それぞれの強さを持ち寄り、違いを受け入れ
砂漠に緑を取り戻そう
わたしたちの大切な惑星に
新たな命を育てるのだ

わたしたちの手で木を植えよう
この大地に
そして、みんなの胸に

(訳: 森 洋子)

「人間も自然の一部」

豊かな自然と人々の心身の健康は決して切り離せないものです。しかし、経済成長を追求するあまり人間は自然のことをおろそかにしすぎている、とニコルさんは訴え続けていました。今回の新型コロナウイルスの蔓延についても「人間が自然に敬意を持たずに生きてきたために自然界のバランスが崩れた結果だ」という言葉を遺しています。

「100年先の未来をつくる」

ニコルさんがめざしたのは100年先の未来をつくることです。生物多様性の豊かな自然を日本中に広めたいというニコルさんの思いを大切にして、当社はこれからもC・W・ニコル・アフアの森財団への支援を続けるとともに、持続可能な社会を実現するために環境経営を推進してまいります。

■C.W.ニコル氏 年表

- 1940 7月17日、英国ウェールズに生まれる
- 1957 カナダに渡り、カナダ水産調査局北極生物研究所の技官として海洋哺乳類の調査研究に従事
- 1967 エチオピア帝国政府野生動物保護省の猟区主任管理官に就任。シミエン山岳国立公園を創設し、公園長を務める
- 1972 カナダ水産調査局淡水研究所の主任技官、また環境保護局の環境問題緊急対策官として、石油、化学薬品の流出事故などの処理に当たる
- 1962 空手の修行のため初来日
- 1980 長野県に居を定め、執筆活動を続ける
- 1986 長野県信濃町の荒れ果てた里山を購入しはじめる。「アフアの森」と名付け、森の再生活動をスタート
- 1995 日本国籍を取得
- 2002 「一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団法人」を設立。理事長に就任
- 2005 英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章を叙勲
- 2011 長野県森林大使を受任。「東日本大震災・震災復興プロジェクト」をスタート
- 2020 4月3日、大腸がんにより永眠。享年79才

主な著書
「風を見た少年」「勇魚(いさな)」「誇り高き日本人でいたい」「盟約」「裸のダルシン」「アフアの森の物語」

KPPとの活動記録

2015年7月7日
社内および取引先向けの講演会にて「人と自然の共生」をテーマに講演

2015年12月1日
一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団のオフィシャルスポンサー契約を締結するとともに、震災復興プロジェクト(宮城県東松島市)に対する支援活動を開始

2016年3月29日
宮城県東松島市野蒜地区にて紙漉きおよび椿・三桧を植樹。和紙作家ロギーール・アウテンボーガルト氏指導のもと、地域の小学生に向けて椿と三桧の植樹と和紙漉き体験の特別講義を共催。以降毎年実施

2019年11月12日
第7回KPP総合展示会にてアフアの森の紹介展示および基調講演。アフアの森で行っている取り組みや、自然と触れ合うことの必要性について講義

国際紙パルプ商事
YouTube
C.W.ニコル氏による
KPP総合展示会
基調講演

2019年12月19日
長野県千曲川氾濫の被災保育園におけるクリスマスイベントに協賛し、クリスマスカードに使うための用紙を提供

2020年6月26日
ニコル氏のラストメッセージをポスターにして東京メトロの12駅に掲示

「手紙」は語る

植村 頼音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第二十二回 C・W・ニコル

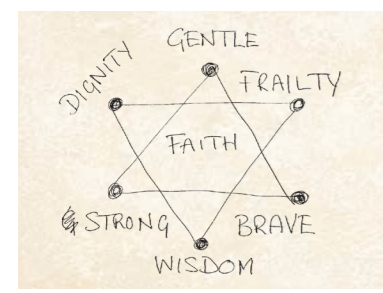
四月三日、C・W・ニコルさんが亡くなった。昵懇というほどではなかったが、三十年に及ぶつき合いだった。そもそのなれそめは、昭和六十四年四月から翌年三月まで年間続いた「C・W・ニコルのおいしい博物誌」という三十分のテレビ番組のとりもつ縁である。ニコルさんは、作家でありまた環境保全の活動家でもあったが、番組は彼が企画し、スポンサーをつけて局に持ちこんだものだった。わたしは当時テレビ東京の編成を担当していた。彼が、執筆活動の傍ら、長野県の荒れた里山を購入し、「アファンの森」と称して再生、拡張させたことを知る人はおおいと思うが、番組は、ニコルさんが親しいゲストを森に案内し、得意の料理をふるまいながら閑談をたのしむというものだった。私は、番組の制作を担当するアマゾンテラナの倉内均さんから紹介を受け、知己を得たのだと思う。ニコルさんと親しくなったのは、たしか番組が終了したあと、プロデューサーで演出も担当した倉内さんと連れられてニコルさんの住む長野県の黒姫を訪ねてからだだろう。宿はニコルさんお気に入り、中原武子さんが経営する小さなペンション「竜の子」だった。ニコルさんと倉内さんと私は夜遅くまで語り合い、翌日は小川に面したニコルさんのお宅を訪ねたあと、アファンの森を案内してもらった。戦後手を加えず放置された森はニコルさんの熱意と手により見事に蘇っていた。

ニコルさんは、イギリスのウェールズ生まれ。高校を卒業後何度か北極圏探検調査などに参加したあと帰国してセントポール教育大学に進学したが、飽き足らず、趣味の格闘技が高じて日本に空手を学びにやってくる。そして、自然の美しい日本がたちまち気に入って日本永住を決めるのである。もちろん会うたびにテレビ番組の企画の話も繰り返かえされた。一つは、「おいしい博物誌」をもう一度やってみたい、もう一つはドナルド・キーンさんとの対談を実現してみたいということだった。私は、倉内さんと相談して「アファンの森の四季」という企画を作りあげ、いくつかの広告主に直接プレゼンに行ったが、実現しなかった。また、キーンさんとの対談も話だけで終わった。

アファンの森の協賛社探しには「役買った。石川さんがすぐさま協賛を買って出て、自身が経営する北海道仁木町のワイナリーと葡萄畑のすぐ裏の森をニコルさんの手を借りて陽の射しこむ生きた森に変身させた。小誌TSUNAGUを発行するのは国際紙パルプ商事だが、会長の田辺 円さんはこの時代には珍しいサムライ経営者の一人である。たしかアートディレクターの佐藤仁さんに紹介されたのだが、初対面の席で田辺さんはTSUNAGUに「手紙は語る」というこのエッセイの連載を決めてくださった。私がサラリーマン退職後著述業を目指しているのに一向に執筆依頼がないことを嘆いたら、わが社



暖炉の火を囲みながらニコルさんが書いたメモ



C.W.ニコル

作家・環境保護活動家・探検家
(一財)C.W.ニコル・アファンの森財団理事長

1940年、英国ウェールズ生まれ。北極調査探検、エチオピア・シミエン山岳国立公園の公園長などを務めるなど、世界各地で環境保護活動を行ったのち、1980年に長野県黒姫に移住。「アファンの森」と名づけた森の再生活動に取り組む。1995年に日本国籍を取得。執筆活動とともに、講演やメディアを通じて環境問題への提言を続ける。2005年、英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章(MBE)を授与される。2020年4月3日没。享年79才。

「竜の子」には何度か泊まった。「C・W・ニコルオフィス」の森田いづみ社長、DACグループの石川代表、サンクゼールの久世社長と語り合ったことなどが記憶にあたりし。森を始め、酒、そして人生など、さまざまなことを話し合った。寒い日は暖炉の火を囲みながら、人生について彼はこんな話をした。たまたま私が人生には「智」が肝要だといったあとだろと思う。「そう」といって彼は、紙に鉛筆で三角を二つ重ねた六角形を書き、真ん中に「FAITH」(信念)、六つの頂点に「GENTLE」(やさしさ)、「FRAILTY」(もろさ)、「BRAVE」(勇敢)、「WISDOM」(知恵)、「STRONG」(力強さ)、「DIGNITY」(尊厳)と書いて私に示した。私にもすぐ理解できた。人間の「信念」は六つの要素でなりたっているという意味だった。たしかに人間は、勇敢、力強さの対極にあるやさしさやもろさを備えている必要がある。ロビーの壁にはニコルさんの詩が額に入れてかけてあった。「Fill your glass and raise a cheer Only friends can drink in here Drink your fill and linger longer Time will make our friendship stronger」(杯を満たしていき乾杯 仲よき友だち集いて杯を重ね 時の流れに身を任せれば 友情は深まるばかり) ニコルさんはお酒が好きで造詣も深かった。ニコルさん、石川代表とはニッカの余市工場や沖縄、伊江島のラム工場を訪ねて酒談義をしたこともある。ウェールズに住む弟さんが開発した山椒風味のジンを高瀬物産の高瀬さんに繋ごうとしたこともあった。そういうえばニッカの工場にはニコルさんのモルトの樽があるということだったが、あれはどうなったのだろう。

紙の商社なので紙に関する記事にしてくれとおっしゃる。そこで、私が長いサラリーマン人生でたくさんの方からたくさんの手紙を頂戴した、それをもとに発信者の横顔を紹介してみたといったらその場で連載が決まった。物事はすべてかくりたいと思う。

そんなこんなのお返しというわけでもなからうが、数年前森田社長から誘われて、アファンの森を馬とともに歩く「マウンテンサファリ」のプロモ動画に出演したことがある。私はあまり風体にも自信がないので出演を躊躇したが、森田さんの口車に乗せられてニコルさんや馬とともに歩くシーンに出演したし、森に関連して生息気に人生を語ったりもした。

このコラムはモティーフが手紙なので、ニコルさんからの手紙を探したが、年賀状以外見あたらない。動画撮影の翌二〇一七年に頂戴した年賀状はニコルさんの直筆風だが、そうではないのかもしれない。署名本はたくさん頂戴しているが、出合いのきっかけとなった番組を書籍化した「C・W・ニコルのおいしい博物誌」の裏表紙にはこう署名がある。

To my Big Brother Tomone From 'Nic' Thank you for 25year of friendship! CWNicoll.

私はニコルさんより二歳年長だが、長いこと彼をニコルさんと呼んで過ごした。晩年は「ニックと呼んでくれ」といわれたものだ。たしかに署名には「Nic」とある。目にするたびに、ニコルさんの温顔と大男ぶりを思い出す。



著者略歴
植村 頼音 エッセイスト
小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に「夏の碑」「気骨の人 城山三郎」など。

最新のテクノロジーを活用した新たなバイオマス事業

02 BMecomo ビーエム エコモ

「BMecomo」は、バイオマス発電所から得られるあらゆるデータを収集・解析し最新のテクノロジーの活用と徹底的な「見える化」により、日々運転を続けるバイオマス発電所の収益最大化を支援するサービスです。

バイオマス発電所で使用する燃料は自然由来のものであり、品質が一定ではありません。この日々刻々と変化する燃料に対応するためには、運転ノウハウの蓄積・継承は欠かすことができません。「BMecomo」は高度なIoT管理により、燃焼効率化・最大発電量の維持、それを下支える熟練運転員のノウハウの次世代への継承、さらには長期にわたる持続的な経営・管理の実現や日々発生する設備トラブルへの対処といったさまざまな課題解決を支援します。

また、いつでもどこからでも発電所のリアルタイム稼働状況を監視できることから、発電所の現場、責任者とステークホルダーとをつなげる情報共有プラットフォームとして、発電所の意思決定、企業価値・事業価値の向上に役立てていただきたいと考えています。当社は「BMecomo」により、これまでにない新たなバイオマス発電事業の創出をめざしています。



「BMecomo」の主な機能

01 遠隔監視による 情報共有・見える化

24時間連続の稼働が求められる発電所。BMecomoは、バイオマス発電所から得られるあらゆるデータをIoTゲートウェイを通じてCloudデータベースへ集約しており、インターネット環境があればいつでもどこからでも発電所のリアルタイム情報を共有することが可能になります。また、BMecomoは、バイオマス発電に係わるステークホルダーの意思決定に必要な情報を美しく視覚化表現できる機能を備えたビジネス・インテリジェンスツールです。

02 設備の保全

発電所では、運転管理に必要なさまざまなデータが分散管理されており平準化が難しい状況となっています。BMecomoは設備情報、保全作業情報、運転記録などのすべてを一元管理し、分析・予測することでプラント設備の寿命予測や保全プランの最適化を支援します。また、BMecomoを活用し高度な運転管理を実現することにより、通常2年の法定管理審査期間を最大6年まで延長することが可能です。

03 燃焼の効率化 (運転ノウハウの継承)

BMecomoは統計分析、機械学習アルゴリズムを活用し、発電所の膨大な過去の運転データからプラントの運転特性を発見し、将来のプラント挙動を予測することで運転最適化を支援します。長期にわたり電力を安定的に供給するために不可欠な運転ノウハウの継承をBMecomoが強力にサポートします。

特設サイト

ご興味をお持ちの方は
サービス紹介動画を
ご覧ください



持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介します

KPP Sustainable Times

ecomoclose(エコモクローズ)とは、当社が展開するリサイクルサービスの名称です。「ECO+持っている:ECO+MODEL(新しいエコのモデル)」という意味が込められています。この度当社は、紙の専門商社として「総合循環型企業」をめざし、「サーマルリサイクル」と「マテリアルリサイクル」の両輪による事業拡大を目的に、「ecomoclose Closed Recycle Service」と「BMecomo」の2つの新サービスを開始いたしましたのでご紹介します。

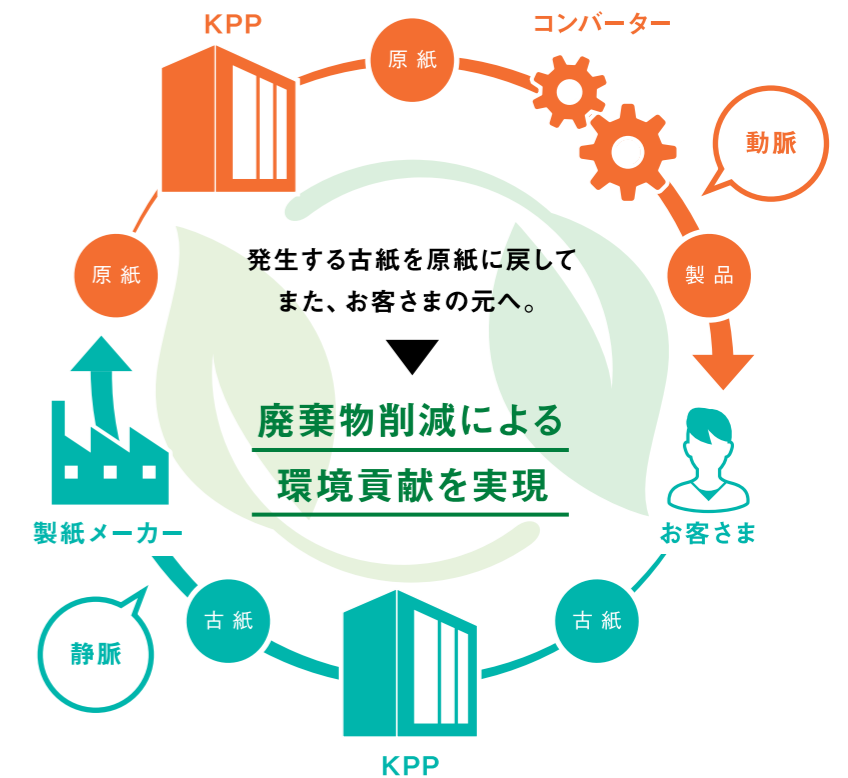
継続性のあるオーダーメイドリサイクルを実現する

01 ecomoclose Closed Recycle Service エコモ クローズドリサイクルサービス

日本の古紙利用率は約64%と、世界でもトップクラスを誇っています。その高いリサイクル率を支えているのは、各家庭やお客さま(企業)における分別廃棄に古紙回収・製紙業界を併せた三位一体のリサイクルシステムです。

持続可能な開発目標(SDGs)への対応が世界的課題として共通認識となった今、古紙のマテリアルリサイクルも多様化が進みつつあり、お客さま主導による新たな取り組みも生まれています。お客さまの中には、自社商品に使用した紙製品(段ボールなど)を自社主導で回収し、最後まで責任を持ったリサイクルを推進する動きも出はじめており、将来的にこうした取り組みが広がっていく可能性も高いと考えます。

このような動きの中で、当社(KPP)は原紙供給という「動脈」と古紙回収という「静脈」を一元管理することで、発生する古紙を原紙に戻し、お客さまに再度利用していただくという資源循環(リサイクルループ)の実現・見える化をサポートします。当社はこの事業を通してお客さまの環境活動に寄り添い、持続可能な循環型社会の実現に貢献していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ecomoclose Closed Recycle Service

■エコモ クローズドリサイクルサービス

お問合せ | 03-3542-9080

受付時間 | 月～金 / 9:00～17:00

エコモ クローズドリサイクルサービス特設サイト
<https://ecomoclose.closedrecycle.jp/>



特設サイト





1 プレインストア* 2 ビジュアルコミュニケーション 3 パッケージング・デザインセンター 4 執行役員メンバー
※印刷メディア専用のショールームやテストラボ、1,500以上もの紙のリファレンスなどグラフィックアート専門スタッフのインスピレーションを得るためのスペース並びに顧客とのコミュニケーションサポートスペース

深める+
FUKAMERU PLUS

新たにKPPグループに加わりました「アンタリス」

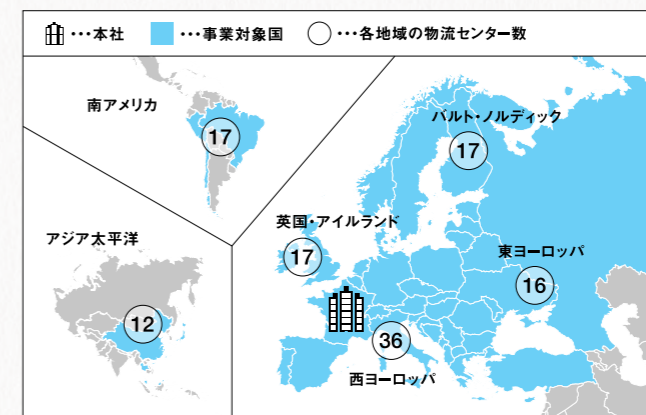
新たにKPPグループの一員となった「アンタリス」。欧州における紙や産業用パッケージの卸売事業やビジュアルコミュニケーションの分野（業界第2位）に強みを持つ紙商として確かな地位を築いている同社の魅力を、エルヴェ・ボンサンCEOのメッセージとともにご紹介します。

世界39カ国で事業を展開

アンタリスは、2000年に、製紙メーカー「アージョウイングス(ArjoWiggins)グループ」傘下にあった紙とビジュアルコミュニケーション関連流通業40社の合併やスピノフによって設立されました。現在、アンタリスは紙商のリーディングカンパニーとして、欧州、南米、そしてアジアなど39カ国でパッケージングおよびビジュアルコミュニケーションのソリューションを提供しています。私たちは、広範かつ多様な製品とソリューションを提供しており、カスタマイズや専門知識、そしてロジステイクスにおいて世界中にある117カ所の流通センターを通じて高度で画期的なサービスを顧客に提供しています。例えば、6カ所あるパッケージング・デザインセンターでは、2Dおよび3Dソフトウェアを使用して調査・設計を行い、年間1万件以上ものオーダーメイドで設計されたパッケージングソリューションを短期間で提供しています。

私たちの使命は、提供する製品やサービス、そしてビジネスパートナーやステークホルダーに、専門知識とイノベーションを通じて、

イノベティブな紙商として顧客やサプライヤーの高い信頼を勝ち得てきたアンタリスは、これからもさらに新たな事業を展開していきます。



顧客に優れたサービスを提供することで、私たちは、事業ポートフォリオの拡大、デジタルトランスフォーメーション(DX)の促進、チームの開発、資本利益率の向上に社会的責任を持ち、これらを迅速に進めていきます。

自分の力を発揮する貢献意欲

私たちのCSRポリシーでは、「ガバナンス」「天然資源」「人材」「製品の提供」という4つの主要分野にフォーカスしています。私たちは、チーム・アプローチに基づく4つのコア・バリューには、「チーム・スピリット」「エンパワメントと信頼」「アカウンタビリティ」「変革のためのマインドセット」があります。これらは、KPPグループの経営理念と親和性が高く、これからKPPグループの新たな一員として互いに理解を深め、豊かで国際的な文化を創り上げていくことを楽しみにしています。さらに当社のブランドとして掲げている標語、「未来をもたらす、アンタリスたれ」は、従業員のエンゲージメントを向上させるための重要な要素になっています。

KPPグループとの今後の発展

KPPグループへの加入は、私たちにとって重要な戦略であり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な経済危機のなかでも、将来的にビジネスのシナジー効果により収益面を強化していくことができるでしょう。私たちは、KPPグループのメンバーになったことで、販売と購買の両方の観点から競合他社よりも新しい価値を創出していきます。



アンタリス倉庫セナート



Antalis
CEO (Chief Executive Officer)
HERVÉ PONCIN
エルヴェ・ボンサン CEO

antalis EM
Just ask Antalis



社名 アンタリス
本社 フランス・パリ
住所 8 rue de Seine 92100
Boulogne - Billancourt
France
設立年 2000年
従業員数 4,150名(7月21日時点)
拠点数 39カ国
(ヨーロッパ、南米、アジア)
事業内容 紙・紙関連商品、パッケージ
ビジュアルコミュニケーション

3つのビジネスとEコマースソリューションは、高い成長と高収益に向けて絶えず変革していくセクターです

■紙・関連商品
紙、板紙、およびクリエイティブペーパー、合成紙、ラベルなどの高付加価値製品だけでなく、事務用紙も提供しています。

■パッケージング
アンタリスのパッケージングは、あらゆる産業、物流、eビジネス、オペレーションプロセスにおいて、高度な専門知識を有したメンバーが顧客のニーズに合わせたスマートなパッケージングとサービスを提供する欧州のリーディングカンパニーです。

■ビジュアルコミュニケーション
屋内外のサインージ、POS広告、装飾アプリケーションのフレキシブル&リジッドメディアのビジュアルコミュニケーション製品を提供しています。

■Eコマースソリューション
EコマースウェブショップとEDIとの接続により、顧客はウェブストアでカタログにアクセスし、30カ国以上にわたるすべての製品を注文することが可能です。

▶ 新会長 兼 CEOおよび新社長就任のごあいさつ

2020年6月26日開催の取締役会において、
代表取締役 会長 兼 CEOに田辺 円、代表取締役 社長執行役員に栗原 正が就任いたしました。
新体制のもと、経営体制の一層の強化を図り、さらなる成長を目指してまいります。
ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



世界の紙市場を見ると、21世紀に入りインターネットが加速度的に普及する一方で、情報コミュニケーションとしての紙の需要は減少し続けております。また、新型コロナウイルスの感染拡大によって人の移動が制限され、新常态が定着すれば紙パルプ業界にとっても需要構造の変化を見極めることが重要になってきます。

当社グループは過去20年間、情報メディアの多様化を背景に、国内紙流通業の再編成を促し、現在の規模と地位を築いてまいりました。一方、製紙メーカーはこの間、エネルギーやバイオテクノロジー、そしてパッケージなどに経営資源を投入し、併せてグローバル展開も加速させております。従って、これまでの印刷・情報用紙を中核事業とした製紙と流通の分業体制による国内市場は相対的に縮小傾向にあります。

このように紙パルプ産業は構造改革期を迎えており、紙流通業界もその対応が喫緊の課題となっております。当社は一昨年に東証一部に上場し、昨年は豪州第2位の紙商スパイサーズ社、今年3月に同3位のダイレクトペーパー社、そして7月には欧州最大手のアンタリス社を買収し、現在のKPPグループは世界約60か国*をカバーする業界屈指の紙商となっております。

また、ポスト紙事業としてパッケージングソリューション、ビジュアルコミュニケーション事業による収益をグループ全体の40%に引き上げていきます。海外売上比率も遅からず50%に達する予定です。国内事業においても古紙の回収と製品販売という循環型ビジネスを武器にシェアの拡大を図り、社会に必要とされる企業として成長してまいります。

今後とも変わらぬご厚誼とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 会長 兼 CEO

田辺 円

現会長 兼 CEOの田辺よりバトンを引き継ぎ、国際紙パルプ商事第13代社長に就任いたしました。100周年に向けた非常に重要な時期に社長という大役を仰せつかり、その責任の重さに身の引き締まる思いです。これまで連綿と受け継がれてきた伝統を受け止め、精一杯努力して更なる発展を果たせるよう努める覚悟です。

当社グループは、創立100周年となる2024年をターゲットにした長期経営ビジョン「GIFT+1 2024」の実現に向け、循環型ビジネスの拡大によるオーガニックグロスとM&Aやアライアンス展開によるインオーガニックグロスの両輪を回し、グループ一丸となって成長戦略を加速させております。

外部環境の変化によってなくなる需要もあれば生まれる需要もあります。EC市場の拡大に伴うパッケージ需要の増加はまさにICT化という変化によって生まれた需要の最たるものです。また昨今では、環境に対する意識が世界的に高まっており、「SDGs」や「ESG」などサステナビリティに関する考え方も企業に広く浸透しております。当社グループではマテリアル・リサイクルとサーマル・リサイクルの双方により、事業活動自体が環境負荷を低減する仕組みづくりを進めております。

米中摩擦の激化や感染症の拡大など混迷を深める世界にあっても、ぶれることなく新たな価値を生み出し続けるため、グループ全体の指針として「KPP GROUP WAY」を掲げ、中長期的な企業価値向上を図り、地球環境に配慮した事業活動を展開してまいります。

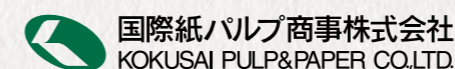
今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

栗原 正

*2020年7月21日現在の情報です。

▶ KPPグループ各社の新型コロナウイルス感染症対策



KPP(日本)



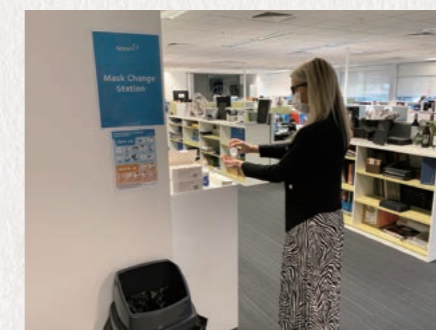
KPPでは、新型コロナウイルス感染予防のため、新型コロナウイルス対策本部を設置し、本社ならびに国内の拠点において社会情勢に応じて段階的に対策を講じています。2月下旬から時差出勤を開始し、さらにテレワークやウェブ会議を推奨し、出勤率を減らしています。オフィス内ではすべてのデスクや会議室にパーテーション（紙製やその他の素材）を設置して日々感染防止に取り組んでいます。また、エントランスには、来社された方々に体温チェックや手指消毒をお願いしています。全従業員には、マスク着用、手洗い、消毒のほか、毎日健康管理表に各々が健康状態を登録してもらい健康チェックを徹底しています。さらに、業務外での行動自粛を呼びかけて人との接触を減らした日常生活を心がけています。これからもKPPは、従業員ならびにその家族、そしてお取引先様の健康を守りつつ、このウィズコロナ時代を乗り越えてまいります。



非接触型体温計による体温チェック



スパイサーズ(オセアニア)



スパイサーズは、すべての従業員の健康と安全を守るため、地方自治体の規制と助言に従って新型コロナウイルス感染拡大の防止に向けた諸対策を講じています。

職務に関係なくすべての従業員に対しマスクの常時着用を徹底しています。また、手指消毒剤とマスク交換ステーションがオフィスと倉庫にそれぞれ設置しており、スタッフはマスクの廃棄・交換、手の消毒をすることができます。

ほとんどの従業員が在宅勤務で、オフィスには限られた人員しかいません。すべてのオフィスと倉庫内は4㎡のスペースをとってデスクや椅子などを配置し、ソーシャルディスタンスの目安である1.5mの距離を保っています。

また、EH&S（環境・労働安全衛生）マネージャーが濃厚接触者の管理を徹底しており、従業員がオフィスや倉庫に入る前に、新型コロナウイルスに感染している人と接触したかどうか、あるいはそのような場所に訪れたかどうか、マネージャーに報告することを義務づけています。

現在、従業員は、オンラインチームコールのツールを使って在宅勤務でもオフィスと同じ環境で仕事を続けており、重要な連絡もリアルタイムで共有できています。私たちは全従業員が一丸となって感染予防に努め、社会的責務を果たしていきます。



アンタリス(ヨーロッパ)

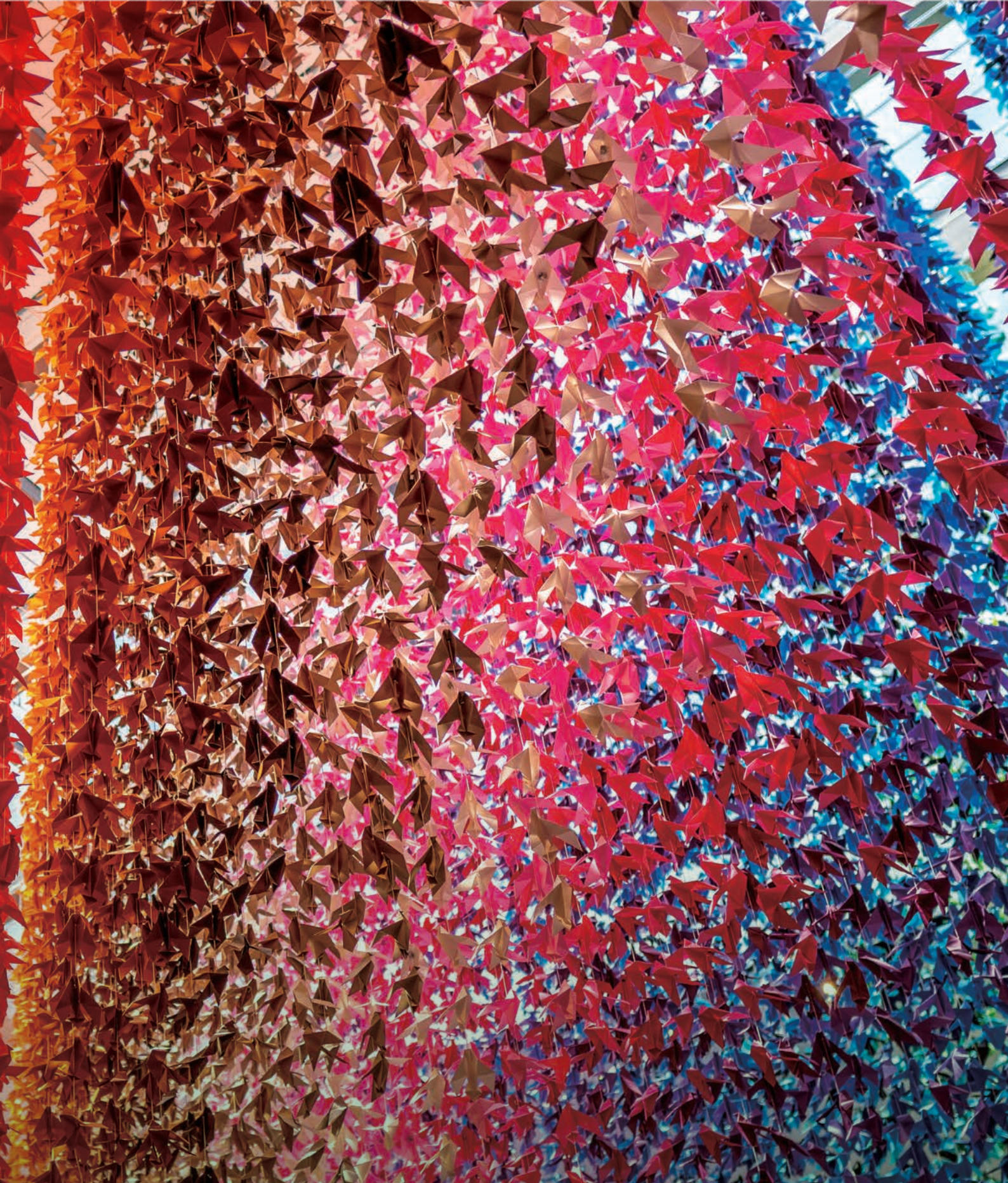


新型コロナウイルスの危機に対し、アンタリスのフランス本社では、従業員の健康を守りつつ事業活動を継続していくため、迅速かつ適切に対応してきました。アンタリスは、失業などに対するフランス政府の特別措置と支援を受け、2カ月間にわたるロックダウンに対処してきました。また、社員のテレワークの実施や倉庫運用の調整など、状況に応じて適切な取り組みを行っています。

ロックダウン解除後の5月中旬からは、徐々にオフィスや倉庫にスタッフが戻ってきました。マスクの着用、定期的な手洗い、ソーシャルディスタンスの確保、会議の回数および参加人数の制限等を行っています。これらの対策については、運用マニュアルを作成し、Eメールですべての従業員に配信し対応を徹底しています。

オフィスは、出社人数の制限を設けることで安全な職場環境を確保しています。また管理職は、専用のExcelファイルを使用して従業員の出社状況を把握し、オフィス内の出社率をコントロールしています。

新型コロナウイルス対策本部は、ILO（国際労働機関）が作成した健全性チェックリストをもとに、すべての労働条件を考慮し、現場の構造に沿った体制を整えることに努めています。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコ・プレス
バインダー

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行：経営企画本部 経営企画部 IR・広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp>